

**平成24年度
福岡県学力実態調査
(社会、英語)**

調査結果報告書

**平成24年12月
福岡県教育庁教育振興部義務教育課**

平成24年度福岡県学力実態調査
(社会、英語)
調査結果報告書

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の対象学年	1
3 調査の教科	1
4 調査の内容	1
5 調査日	1
6 6月22日に調査を実施した学校・児童生徒数	2
7 調査問題の内容	2
II 調査結果の概要	3
1 調査結果概況	3
2 全体の状況	3
3 「知識」に関する問題の状況	3
4 「活用」に関する問題の状況	3
5 これまでの状況	4
6 地区別（教育事務所別）の状況	5
◆資料の見方◆	6
III 各教科調査結果	7
1 小学校社会	7
2 中学校社会	10
3 中学校英語	13

平成24年度 福岡県学力実態調査 (社会、英語) 調査結果報告書

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、県の状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年

公立の小学校及び特別支援学校小学部第6学年
公立の中学校、特別支援学校中学部及び中等教育学校第3学年
※ 特別支援学校については希望する学校に問題等を配布する。

3 調査の教科

- 小学校第6学年 社会（1教科45分で実施）
- 中学校及び中等教育学校第3学年 社会、英語（1教科50分で実施）

4 調査の内容

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

5 調査日

平成24年6月22日（金）

6 6月22日に調査を実施した学校・児童生徒数

小学校	学校数		調査を受けた児童数	
	対象学校数	実施校数	社会	
	474	473	24,678	
中学校	学校数		調査を受けた生徒数	
	対象学校数	実施校数	社会	英語
	214	214	23,751	23,756

7 調査問題の内容

- 調査範囲等
 - ・ 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
 - ・ 各教科の問題のうち主として「知識」に関する問題が約7割、主として「活用」に関する問題が約3割で構成する。詳しい問題数は下表のとおりである。

.	小学校	中学校	
	社会	社会	英語
主として「知識」に関する問題	19	22	21
主として「活用」に関する問題	7	8	9
合計問題数	26	30	30

- 設問（解答）形式

「選択式」、「記述式」及び「論述式」の3形式とする。

 - * 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。
選択肢は想定される誤答傾向に基づいて設定する。
 - * 記述式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。
 - * 論述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。

なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

.	小学校	中学校	
	社会	社会	英語
選択式	11	14	20
記述式	10	10	6
論述式	5	6	4

II 調査結果の概要

1 調査結果概況

<小学校>

	社 会		
	全体	知識	活用
期待正答率	60.2	63.7	50.7
平均正答率	58.6	63.9	44.5

<中学校>

	社 会			英 語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
期待正答率	51.0	55.0	40.0	60.5	66.2	47.2
平均正答率	47.0	52.3	32.6	58.6	67.6	37.7

期待正答率：学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることが期待される児童生徒の割合を想定したもの。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値の百分率のこと。

2 全体の状況

- 小学校社会では、期待正答率を下回っているが、5ポイントの範囲内である。
- 中学校では、社会、英語とも期待正答率を下回っているが、5ポイントの範囲内である。
- どの教科も「活用」に関する問題の平均正答率は「知識」に関する問題の平均正答率より低く、知識・技能を活用する力に課題がみられる。

3 「知識」に関する問題の状況

- 小学校社会では、期待正答率を上回っており、学習内容を概ね理解していると考えられる。
- 中学校では、英語は期待正答率を上回り、社会は期待正答率を下回っているが、5ポイントの範囲内であり、学習内容を概ね理解していると考えられる。

4 「活用」に関する問題の状況

- 小学校社会では、期待正答率を5ポイント以上下回っており、知識や技能を活用する力に課題があると考えられる。
- 中学校では、社会、英語で期待正答率を5ポイント以上下回っており、知識や技能を活用する力に課題がみられる。特に、英語においては、期待正答率を10ポイント近く下回っている。

※ 本調査では、全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学、理科）と異なり、1時間の調査で「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を約7：3の割合で実施している。

このことから、2～4のように分析しているものの、正答率の状況を単純に比較することは必ずしも適当ではない。

5 これまでの状況

<小学校>

- 社会全体では、平均正答率が45%から59%の間で推移している。本年度はこれまでで、最も期待正答率との差が縮まっている。

<中学校>

- 社会全体では、平均正答率が40%台を推移している。本年度は、昨年度より期待正答率との差が広がったが、全体的には縮まる傾向にある。
- 英語全体では、平均正答率が60%前後を推移している。昨年度より、期待正答率との差が広がったが、「知識」については、3年前から期待正答率を上回るようになってきている。

【平成20～24年度の平均正答率の推移】

<小学校>

	社会			理科		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	51.7	61.0	30.8	58.0	62.7	45.5
平成21年度	45.3	51.5	33.0	55.5	58.3	50.2
平成22年度	50.6	53.0	40.0	62.3	65.8	56.9
平成23年度	47.2	46.9	48.0	61.3	68.4	51.3
平成24年度	58.6	63.9	44.5			

<中学校>

	社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	47.6	51.9	36.5	55.1	57.7	47.9	63.6	73.0	41.4
平成21年度	41.4	47.1	26.9	52.1	54.5	46.3	59.4	63.5	51.2
平成22年度	41.2	44.0	33.4	47.8	48.2	46.5	61.4	68.5	49.0
平成23年度	46.7	49.5	39.0	51.7	54.7	44.3	62.6	68.9	41.8
平成24年度	47.0	52.3	32.6				58.6	67.6	37.7

【平成20～24年度の期待正答率と平均正答率との差の推移】

<小学校>

	社会			理科		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	-9.1	-2.9	-23.0	-3.2	-1.8	-7.0
平成21年度	-8.0	-3.1	-17.8	-1.6	0.1	-4.8
平成22年度	-3.8	-4.3	-2.0	-2.4	-3.1	-1.4
平成23年度	-6.3	-8.1	-2.0	-1.5	0.8	-4.5
平成24年度	-1.6	0.2	-6.2			
H23からの推移	○	○	▼			

<中学校>

	社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	-11.9	-10.1	-16.8	-5.4	-4.8	-7.1	-0.6	3.7	-10.8
平成21年度	-12.5	-8.3	-23.1	-6.0	-5.0	-8.1	-0.4	-0.2	-1.8
平成22年度	-9.6	-9.0	-11.6	-6.4	-6.6	-6.0	0.7	4.6	-6.0
平成23年度	-3.3	-1.6	-7.9	0.3	1.1	-1.7	1.8	5.2	-9.6
平成24年度	-4.0	-2.7	-7.4				-1.9	1.4	-9.5
H23からの推移	▼	▼	○				▼	▼	○

○：H23より差が縮小 ▼：H23より差が拡大

6 地区別（教育事務所別）の状況

県内を教育事務所ごとの6つの地区に分けて分析した。

■ 平均正答率の状況

- 各教科とも6地区間で差がみられ、全体では小学校社会で7ポイント、中学校社会で約10ポイント、中学校英語で約12ポイントの差がみられる。
- 小学校社会では、「活用」に関する問題のほうが、「知識」に関する問題よりも6地区間の差が大きい。
- 中学校では、社会に比べ、英語の方が6地区間の差が若干大きい。また、社会では、「活用」に関する問題のほうが、「知識」に関する問題よりも6地区間の差が大きい。英語では「知識」に関する問題のほうが、「活用」に関する問題よりも6地区間の差が大きくなっている。
- 昨年度に比べ小学校、中学校とも6地区間の差が小さくなっている。

【各教育事務所別の平均正答率】

・	小学校			中学校					
	社会			社会			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
県全体	58.6	63.9	44.5	47.0	52.3	32.6	58.6	67.6	37.7
福岡	59.6	64.6	46.1	49.9	54.9	36.3	62.8	71.8	41.8
北九州	58.3	63.6	43.9	46.3	51.7	31.4	54.6	63.7	33.5
北筑後	58.7	63.9	44.5	46.4	52.2	30.7	57.8	66.9	36.7
南筑後	60.7	65.8	46.9	45.6	50.9	30.9	56.5	65.4	35.6
筑豊	53.7	59.4	38.2	39.8	45.1	25.2	51.0	59.5	31.0
京築	57.0	62.9	41.1	46.1	51.4	31.4	56.2	65.5	34.6
最大最小の差	○ 7.0	○ 6.4	▼ 8.7	○ 10.1	○ 9.8	▼ 11.1	○ 11.8	□ 12.3	○ 10.8
(H23)	8.8	10.4	5.5	11.0	11.1	10.9	12.8	12.3	14.2

○：H23より差が縮小 ▼：H23より差が拡大 □：差がない

■ 平成20年度からの標準偏差の状況

平成20～24年度の6地区間の教科全体の平均正答率のばらつきについて「標準偏差」をもとに分析した。

- 小学校社会では、3年前からばらつきは小さくなってきている。
- 中学校では、社会、英語ともばらつきは、5年間で最大になっている。英語では、年々ばらつきが大きくなってきている。

【平成20～24年度の6教育事務所間の標準偏差の推移】

・	小学校		中学校		
	社会	理科	社会	理科	英語
平成20年度	2.6	3.2	2.8	3.4	3.4
平成21年度	2.3	3.0	2.6	3.4	3.6
平成22年度	3.0	2.7	2.3	3.1	3.6
平成23年度	2.7	2.5	3.2	3.8	3.8
平成24年度	0.8		4.7		6.1

◆資料の見方◆

各教科調査結果における「問題内容と解答類型」の見方は次のとおりである。

◇選択肢式の問題と記述・論述式の問題の区別を表す。

◇「活用」に関する問題は☆印、空欄は「知識」に関する問題を示す。

◇問題の内容は、出題している問題に関連する一般的な単元名等を表す。
 ◇領域は、出題している問題に関連する学習指導要領の内容を示す。
 ◇出題のねらいは、出題している問題で調査しようとしているねらいを表す。

通し番号	大問番号	中間番号	解答形式			観点			活用問題	問題の内容	領域	出題のねらい
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ				
1	1	(1)	☆			○	◎		①消防士の仕事※	①地域社会における安全を守る工夫	消防署で働く人々の勤務の様子を示す資料を読み取ることができる。	
2		(2)			☆	◎	○	☆			具体的な火災場面における、消防署の地域間の連携について考え、表現することができる。	

◇各教科の「観点別学習状況の評価の観点」を示す。
 [社会]
 イ：社会的な思考・判断・表現
 ウ：資料活用の技能
 エ：社会的事象についての知識・理解
 [英語]
 イ：外国語表現の能力
 ウ：外国語理解の能力
 エ：言語や文化についての知識・理解

類型番号							正答率	期待正答率
1	2	3	4	9	無解答			
70.9	14.0	6.5	4.1	3.9	0.6	70.9	85.0	
7.9	42.9	10.5	15.2	22.9	0.6	42.9	85.0	
15.9	22.6			54.5	6.9	15.9	65.0	
10.5	1.3	77.6	9.5	0.1	0.9	77.6	70.0	

◇選択式の問題では、選択肢1～4を示し、記述式と論述式の問題では解答類型を示す。解答類型は1～5までである場合がある。
 ◇「9」は解答類型以外の解答を示す。「無解答」は、解答していないことを示す。
 ◇各類型の数字は、該当する児童生徒数の割合を%で示す。
 ◇白抜き数字が「正答」を示す。記述式・論述式の問題では「1」（複数の場合もある。）が「正答」を示す。
 ◇正答率と期待正答率を網掛けで示した問題は記述式または論述式の問題であることを示す。

語句	説明
選択式	四つの選択肢から正しいものやあてはまるものを一つ答える問題
記述式	語句などを答える問題 グラフや図を描く問題も含む
論述式	文で答える問題 考え方の筋道を図や式で答える問題も含む
正答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における正しい答え
誤答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における誤った答え
無解答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における解答のなかったもの
正答率	設問に対して正答した児童生徒の割合
期待正答率	学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることが期待される児童生徒の割合を想定したもの 問題の内容別・領域別・観点別・教科別の期待正答率は、各問題の期待正答を単純平均した数値
観点	指導要録の「指導に関する記録」における「観点別学習状況」の評価の観点
問題の内容	出題している問題に関連する一般的な単元名等
領域	出題している問題に関連する学習指導要領の内容

III 各教科調査結果

1 小学校社会

- 教科全体では、期待正答率 60.2%に対して平均正答率 58.6%であり、1.6 ポイント下回っている。(昨年度は-6.3 ポイント)
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 0.2 ポイント上回り、「活用」に関する問題では、6.2 ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点とも1~2 ポイント程度、期待正答率を下回っている。
- 解答形式別では、記述式、論述式で期待正答率を下回っており、特に記述式では、約6 ポイント程度下回っている。選択式は、3.5 ポイント上回った。
- 領域別では、「地域や市の様子」、「先人の働き」が約5 ポイント、「情報産業や情報社会」が約11 ポイント期待正答率を上回っているが、他の領域は、2~9 ポイント程度、下回っている。
- 正答数分布は、16問をピークに概ね正規分布の形状を示している。

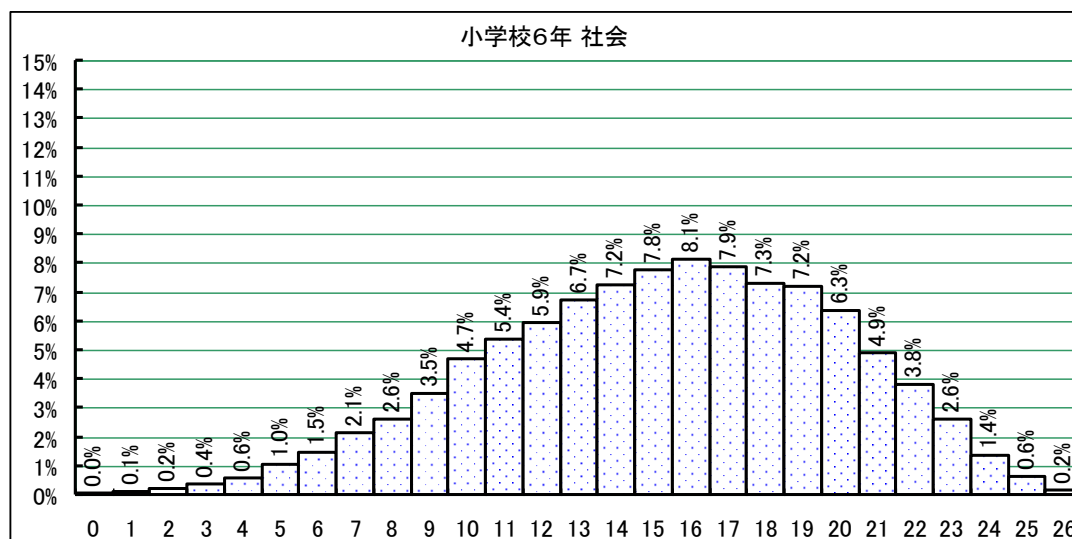
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	選択式	記述式	論述式
期待正答率	60.2	63.7	50.7	54.8	61.6	63.1	67.7	55.5	53.0
平均正答率	58.6	63.9	44.5	54.1	60.8	60.6	71.2	49.2	49.9
差	-1.6	0.2	-6.2	-0.7	-0.8	-2.5	3.5	-6.3	-3.1

■ 領域別の正答率

	領域別正答率						
	地域や市の様子	生活環境を守る活動	先人の働き	国土の自然などの様子	農業や水産業	工業生産	情報産業や情報化社会
期待正答率	63.3	65.8	65.0	62.0	50.0	50.0	62.5
平均正答率	68.7	59.6	69.8	59.1	41.0	46.3	73.7
差	5.4	-6.2	4.8	-2.9	-9.0	-3.7	11.2

■ 正答数分布 (全26問) 横軸：正答数(問) 縦軸：児童の割合(%)



■ 小学校社会 問題内容と解答類型（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号									正答率	期待 正答率				
				選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	9	無解答						
1		(1)		☆					○	◎	○		地域の様子について、絵地図に示された情報を読み取ることができる。		8.4	4.4	80.6	6.2							0.2	0.2	80.6	70.0
2	1	(2)		☆				◎	○	○	☆	①学校のまわりの様子※	①地域や市の様子	絵地図に示された情報を読み取り、実際の調査場面での道順を判断することができる。		43.9	7.5	4.1	3.0	9.7	18.5	2.2	10.3	0.8		43.9	50.0	
3		(3)		☆					◎	○			わかりやすい絵地図をつくるための技能を習得している。		9.4	81.7	2.8	5.4						0.1	0.6	81.7	70.0	
4		(1)		☆					○	◎			ダムや浄水場の役割を理解している。		36.3	11.5	29.7							22.4	0.2	36.3	65.0	
5	2	(2)		☆					○	◎		②くらしをささえる水	②生活環境を守る活動	水に関する複数のグラフを読み取ることができる。		6.6	4.8	85.5	2.7						0.1	0.3	85.5	75.0
6		(3)		☆				◎		○			水を大切に使うための工夫について考察することができる。		72.6									25.7	1.7	72.6	65.0	
7		(1)	①	☆					○	◎			清掃工場で処理されるごみの種類を理解している。		51.0	7.5	37.0	3.7							0.1	0.6	51.0	70.0
8	3	(1)	②	☆					○	◎			清掃工場でのごみの処理方法について理解している。		47.6	47.9	1.0								3.2	0.3	47.6	60.0
9		(2)				☆		◎	○		☆	③ごみのしよりと利用※	②生活環境を守る活動	生ごみの発生量の変化とその理由について、複数の資料をもとに考察し、内容を表現することができる。		64.9	18.3	6.8							5.0	5.1	64.9	60.0
10		(1)	①	☆					○	◎	○		昔の生活の様子について、資料をもとに把握することができる。		1.5	95.3	1.9	1.1							0.0	0.1	95.3	80.0
11	4	(2)	②	☆					○	◎		④先人の働き※	③先人の働き	昔と今の道具の変化について理解している。		96.0	1.2	1.0	1.6						0.1	0.2	96.0	75.0
12		(2)		☆				◎	○		☆		那須疏水の様子について、年表や絵、地図をもとに考察することができる。		18.2	10.6	21.4	18.2						29.1	2.5	18.2	40.0	
13		(1)		☆					○	◎			日本の領土や位置について理解している。		11.4	5.2	72.9	9.6							0.1	0.7	72.9	70.0
14		(2)		☆					○	◎			都道府県の名称と位置について理解している。		35.0									57.7	7.2	35.0	65.0	
15	5	(3)		☆					○	◎			日本の地形の特色について、複数のグラフから読み取ることができる。		5.8	20.0	15.8	55.0							0.2	3.1	55.0	70.0
16		(4)				☆		◎	○	○	☆		北海道に見られる家の写真を選択し、その特徴を表現することができる。		77.7	14.6	6.6								0.1	1.0	77.7	55.0
17		(5)		☆					◎	○			森林の働きについて、資料を読み取ることができる。		14.5	21.8	7.4	54.9							0.1	1.3	54.9	50.0
18		(1)		☆				◎	○	○			資料をもとに、米づくりの作業順を判断することができる。		60.7									38.2	1.0	60.7	45.0	
19	6	(2)				☆		◎	○		☆	⑥日本の食料生産※	⑤農業や水産業	農業で働く人数と米の単位面積あたりの収穫量の変化を関連づけて読み取り、その変化の理由について複数の資料をもとに考察し、内容を表現することができる。		34.2	30.1	5.1	19.7	1.4				5.6	3.8	34.2	45.0	
20		(3)				☆		◎	○	○	☆		遠洋漁業の問題点について、複数の資料をもとに考察し、内容を表現することができる。		24.1	3.8	11.3	30.7						10.6	19.5	27.9	60.0	
21		(1)		☆					○	◎			自動車生産の工程について、該当する写真を選択することができる。		69.3	6.6	7.5								13.8	2.8	69.3	60.0
22		(2)		☆					◎	○	○		日本の自動車生産台数の変化について、グラフから判断することができる。		23.2	31.3	21.3	15.0							3.2	6.1	31.3	45.0
23	7	(3)	①	☆					○	◎			日本の工業生産の様子について、グラフを読み取ることができる。		40.2	27.7	14.5								10.5	7.2	40.2	50.0
24		(3)	②			☆		◎	○	○	☆		臨港部で工業がさかんな理由について、複数の資料をもとに考察し、内容を表現することができる。		44.6	11.4	14.4							6.2	23.4	44.6	45.0	
25		(1)		☆					○	◎			放送局や新聞社における編集の仕事について理解している。		79.1	7.1	3.7	2.2							0.3	7.7	79.1	70.0
26	8	(2)		☆				◎		○		⑧わたしたちの生活と情報	⑦情報産業や情報化社会	メディアの種類と特色について判断することができる。		68.3									23.0	8.7	68.3	55.0

■ 小学校社会 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 47都道府県の名称と地理的位置の学習の充実

都道府県の名称と位置について問う問題の正答率が低い状況である。

この問題では、我が国が47の都道府県によって構成されていることが分かり、都道府県の名称と地理的位置の確実な理解が求められる。

そこで指導に当たっては、各学年の学習場面において都道府県の名称が登場した時に地図帳で位置を確認したり、学習したことを白地図に整理したりする等、学習内容や特色と関連付けて都道府県の名称や地理的位置の確実な定着を図る意図的・計画的な指導が大切である。また、教室に日本の都道府県の地図を掲示したり、白地図を児童が日常的に活用できるように工夫したりする必要がある。

◇視点2 生活環境を守る活動について理解を深める学習の充実

飲料水の確保や供給、廃棄物の処理にかかわる仕組みを問う問題の正答率が低い状況である。

例えば、浄水場の役割、清掃工場でのごみ処理の仕組みについて正しく理解されていない状況がある。これらの問題では、川の水量調節や水力発電に利用するダム働きや、安全な水に浄化する浄水場の役割、清掃工場で処理されるごみの種類や有害物質を取り除く清掃工場の衛生的な処理の仕組みについて確実な理解が求められる。

そこで指導に当たっては、飲料水の確保や廃棄物処理の現状をもとに問題意識をもたせた上で施設の見学やそこで働く人への聞き取り調査を行うことが大切である。そして、施設の役割と人々の働きを関係図にまとめ、自分たちの暮らしとの関係の意味について話し合う活動を単元に位置付ける必要がある。

◇視点3 各種の基礎的資料から、変化や傾向、意味を読み取る学習の充実

日本の自動車生産台数の変化や工業生産の様子について、資料から読み取る問題の正答率が低い状況である。

この問題では、日本の工業生産の特色や自動車の生産台数が変化した理由についてグラフから読み取ったり、考えたりする力が求められる。

そこで指導に当たっては、学年に応じたグラフの読み取りの指導を日常的に行うとともに、グラフの変化や写真の特徴に着目させ、「その変化がなぜ起こるのか」「変化によって、どんなよい点や問題点が起こるのか」といった問いをもたせるなど、資料をもとに根拠になる事実を調べて自分の考えをまとめ、学級全体で考えを練り上げる話し合いを行う必要がある。

◇視点4 複数の資料を関連付けて読み取り、分かったことや考えたことなどを説明する学習の充実

複数の資料を関連付けて考え、まとめ、説明する問題の正答率が低い状況である。

たとえば、農業で働く人数の変化のグラフと米の単位面積あたりの収穫量の変化のグラフを関連付けて読み取り、農業機械の使用台数を表すグラフや品種改良を表す複数の資料から米の収穫量が増加した理由について考察する問題などである。

この問題では、農業で働く人数が減少しているグラフと単位面積あたりの米の収穫量が増加しているグラフを関連付けて読み取り、働く人が減少しているにもかかわらず収穫量が増加している理由を、農業機械の使用台数が増えたことや、味がよくて病気に強く、栽培しやすい米に品種改良されたことから、収穫量が増加したという結論に導くことを考察することが大切である。

そこで指導に当たっては、一つ一つの資料に示された情報を丁寧に読み取らせるとともに、それらの共通点を見出させたり、資料を既習の知識や概念を使って因果関係を見出させたりするなど、複数の資料を活用させる学習を意図的に仕組む必要がある。

ここでは、問題解決的な学習を基本として、資料どうしを比べて疑問を出させる活動を仕組んだり、見学や資料等による調査活動を終えてまとめた後に、教師が児童のまとめた資料どうしを結び付けて新たな課題を提示したりするなど、考えを深めさせる工夫が必要になる。また、資料の読み取りが苦手な児童には、個別に、きめ細かく、継続的に指導することが大切である。

2 中学校社会

- 教科全体では、期待正答率 51.0%に対して平均正答率 47.0%であり、4.0 ポイント下回っている。(昨年度は-3.3 ポイント)
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 2.7 ポイント下回り、「活用」に関する問題では、7.4 ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点とも 2~7 ポイント程度、期待正答率を下回っている。
- 解答形式別では、いずれの形式も期待正答率を下回っており、特に論述式では、約 11 ポイント下回っている。
- 領域別では、「世界と日本の地域構成」、「地域の規模に応じた調査」「世界と比べて見た日本」が 1~7 ポイント程度、期待正答率を上回っているが、他の領域は、8~14 ポイント程度、下回っている。
- 正答数分布は、8問から 19問にかけて約 5~6%の生徒が分布しており、なだらかな山のような形状を示している。

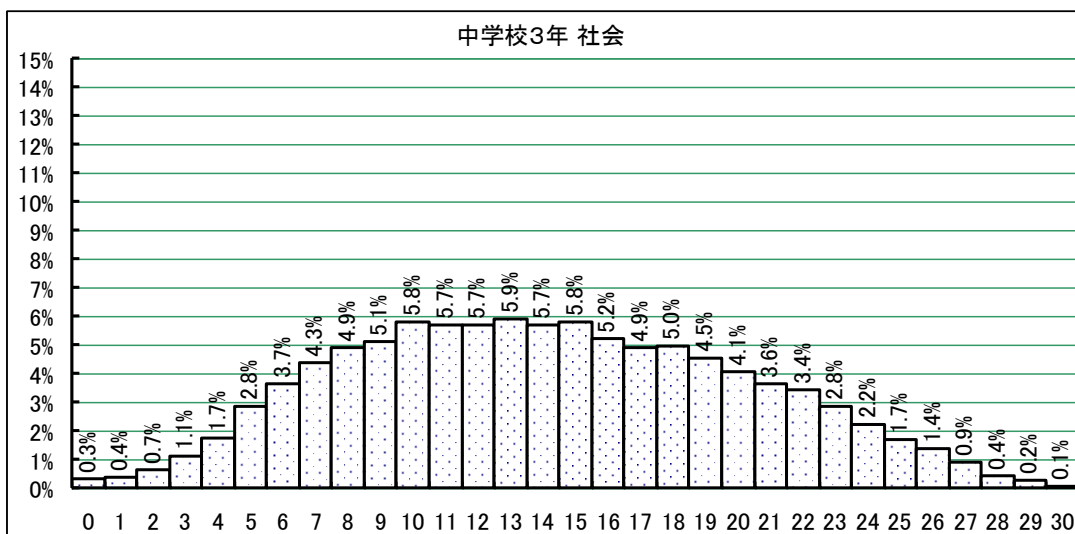
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	選択式	記述式	論述式
期待正答率	51.0	55.0	40.0	40.0	52.9	52.1	55.0	52.0	40.0
平均正答率	47.0	52.3	32.6	32.8	50.6	47.4	54.5	47.6	28.8
差	-4.0	-2.7	-7.4	-7.2	-2.3	-4.7	-0.5	-4.4	-11.2

■ 領域別の正答率

.	領域別正答率					
	世界と日本の地域構成	地域の規模に応じた調査	世界と比べて見た日本	古代までの日本	中世の日本	近世以降の日本と世界
期待正答率	55.0	46.7	53.9	58.3	40.0	46.0
平均正答率	60.4	53.8	55.7	47.0	31.5	31.8
差	5.4	7.1	1.8	-11.3	-8.5	-14.2

■ 正答数分布 (全 30 問) 横軸：正答数 (問) 縦軸：児童の割合 (%)



■ 中学校社会 問題内容と解答類型（類型番号欄の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号						正答率	期待 正答率	
				選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	9	無解答			
1	1	(1)	①	☆					○	◎	①地球の姿をとらえる	①世界と日本の地域構成	大陸・海洋の位置と名称を理解している。	78.3	10.5	5.5	1.9	3.5	0.3	78.3	60.0	
2			②		☆				◎	○			地図を読み取り、2地点間の時差を考慮することができる。	31.2					55.0	13.8	31.2	40.0
3		(2)		☆					◎	○			日本の地域区分について理解している。また、都道府県の形を読み取ることができる。	7.4	12.5	71.6	6.9	0.6	1.0	71.6	65.0	
4	2	(1)			☆					◎	②世界の国々を調べる※	②地域の規模に応じた調査	オセアニア州について理解している。	64.0	13.2			12.8	10.1	64.0	60.0	
5		(2)		☆				◎	○	オーストラリアの国土の位置の理解をもとに、日本の標準時子午線を読み取ることができる。			4.9	60.3	24.6	8.8	0.1	1.3	60.3	40.0		
6		(3)				☆		◎	○	☆			オーストラリアの人口分布が偏っている理由を、年降水量や年平均気温の分布と関連付けて考え、表現することができる。	36.5	0.8			42.3	20.4	37.3	40.0	
7	3	(1)			☆			◎	○	③日本と世界の自然環境※	③世界と比べて見た日本	日本の主な地形について理解し、地形図を読み取ることができる。	57.6				41.1	1.3	57.6	40.0		
8		①		☆				◎	○			日本の川に関する資料をもとに、棒グラフをかくことができる。	75.8				21.8	2.4	75.8	65.0		
9		②			☆		◎	○	○			☆	日本海側の地域を流れる川の流量変化について、気候と関連付けて考え、表現することができる。	13.3	0.7	26.8		22.4	36.8	14.0	40.0	
10	4	(1)		☆				◎	○	④日本と世界の人口※	③世界と比べて見た日本	日本の人口構成についての理解をもとに、人口ピラミッドを読み取ることができる。	4.2	5.5	84.1	5.0	0.3	0.9	84.1	65.0		
11		(2)		☆			◎	○	○			☆	東京23区の例をもとに、大阪市の区別昼夜間人口比率について類推することができる。	58.8	2.3	28.8		5.7	4.4	58.8	40.0	
12	5	(1)		☆				◎	○	⑤日本と世界の資源、産業※	③世界と比べて見た日本	世界の鉱産資源産出地に関する地図を読み取ることができる。	17.3	15.5	57.4	8.2	0.1	1.5	57.4	65.0		
13		(2)		☆				◎	○			日本の農業に関するグラフを読み取ることができる。	7.6	10.7	3.5	76.1	0.3	1.7	76.1	65.0		
14		(3)			☆				◎			○	日本の漁業について理解している。また、日本の漁業に関するグラフを読み取ることができる。	20.6	25.4	15.9		31.4	6.8	20.6	65.0	
15		(4)				☆		◎	○			○	☆	日本企業のアジア進出の理由を、資料を読み取って考え、表現することができる。	57.4				11.3	31.3	57.4	40.0
16	6	(1)		☆				○	◎	⑥古代までの日本の様子	④古代までの日本	縄文時代の人々の生活の様子について理解している。	55.1	4.4	33.6	5.4	0.2	1.3	55.1	70.0		
17		(2)		☆				○	◎			大和政権について理解している。	48.1				31.1	20.8	48.1	60.0		
18		(3)		☆					○			◎	倭の奴国の王が授けられた金印について理解している。	18.3	31.5	8.4	40.2	0.2	1.4	31.5	55.0	
19	7	(1)		☆					◎	⑥古代までの日本の様子	④古代までの日本	平城京について理解している。	7.9	27.8	48.7	13.8	0.1	1.6	48.7	70.0		
20		(2)		☆			○	◎	奈良時代の政治について理解している。			38.1	17.5	21.2	21.5	0.1	1.6	38.1	40.0			
21		(3)		☆					◎			浄土信仰について理解している。	14.9	60.6	12.8	9.7	0.1	1.8	60.6	55.0		
22	8	(1)		☆					◎	⑦中世の日本の様子※	⑤中世の日本	鎌倉時代の農業について理解している。	10.0	41.1	13.7	32.8	0.1	2.3	41.1	40.0		
23		(2)			☆		◎	○	○			☆	承久の乱に関する理解をもとに、鎌倉幕府の主なしくみの変化について考え、表現することができる。	26.2	30.5			22.4	20.8	26.2	40.0	
24		(3)			☆							◎	戦国大名について理解している。	43.6				27.8	28.7	43.6	40.0	
25		(4)				☆		◎	○			○	☆	資料を読み取り、室町時代の文化の特色について考え、表現することができる。	15.1				31.7	53.2	15.1	40.0
26	9	(1)	①	☆				◎	○	○	☆	⑧近世以降の日本と世界※	⑤近世以降の日本と世界	大阪の蔵屋敷が集まっている場所について、資料を読み取って考えることができる。	29.2	8.7	14.5	42.8	0.8	3.9	29.2	40.0
27			②		☆					◎	寺子屋について理解している。			51.0				32.7	16.3	51.0	55.0	
28			③			☆		◎	○	○	☆			開国後の日本国内の産業の様子について、資料を読み取って考え、表現することができる。	23.0				38.3	38.7	23.0	40.0
29			④		☆			○	◎					開国から大政奉還までの歴史の流れについて理解している。	23.6	17.3	24.9	30.8	0.2	3.1	30.8	40.0
30		(2)			☆				○	◎	地租改正について理解している。			24.9				52.3	22.8	24.9	55.0	

■ 中学校社会 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 日本の地域構成を大観する学習の充実

大陸名や海洋名、日本の地域区分の学習内容については、定着がみられるものの、例年課題としてあがっている時差を求める問題に改善傾向がみられない状況である。

本年度の時差に関する問題は、経線が 30° おきに引かれていることを地図上から読み取り、それをもとに日本との時差を求めるようになっている。ここでは、経線や経度の意味と時差を求める方法の理解が必要となる。

そこで指導に当たっては、地球儀などを活用して緯度・経度の意味を確実に習得させるとともに、時差の学習が一過性の学習にならないように適宜定期考査等で取り上げる必要がある。また、テレビのニュース番組や海外からの中継等を活用して身近な生活場面と関連付け、実感を伴って理解させることも大切である。

なお、東経、西経の時差の求め方については、数学科の「正の数と負の数」の学習を活用するなどの工夫も必要である。

◇視点2 各時代の特色を理解する学習の充実

古代における東アジアとの関係や近代における課税基準や納税方法に関する問題の正答率が低い状況である。

これらの問題では、時代を特徴づける歴史的事象の確実な理解や他の時代と比較して異なった時代の特色についての理解が必要となる。

そこで指導に当たっては、毎時間の学習で、時代の特色につながるまとめを確実に行わせるとともに、時代を大観する際には、毎時間の学習の成果が生かせるように表現活動などを工夫する必要がある。また、ここでは、学んだ内容を比較、関連付け、総合させるなどの活動を通して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目させることが大切である。

◇視点3 社会的事象の意味、意義を解釈する学習の充実

遠洋漁業の漁獲量の減少に関する問題や、鎌倉幕府のしくみに関する問題の正答率が低い状況である。

これらの問題では、遠洋漁業の漁獲量が減少していることや鎌倉幕府に六波羅探題が置かれたことを知ってはいるが、漁獲量減少の理由や六波羅探題設置の理由までは理解していない状況がみられる。ここでは、社会的事象の意味を確実にとらえ、自分なりに説明する力が求められる。

そこで指導に当たっては、「なぜ、遠洋漁業の漁獲量が減少しているのか」「なぜ、六波羅探題が置かれたのか」といった問いを追究させることを基本とする。その上で、一人一人の生徒が問いに対する解答を自分の言葉で的確に説明できるか評価し、説明できない生徒にはきめ細かな指導を行う必要がある。

◇視点4 様々な資料を多面的・多角的に考察する学習の充実

資料から必要な情報を読み取り、説明する問題の正答率が低い状況である。

例えば、日本海側の川の水量が春季に増加する理由を、日本海側の気候の特色をもとに推察する問題や、足利義満が太政大臣になり朝廷の権威も身に付けていったという事象の理解を背景に、鹿苑寺金閣の内部構造の資料をもとに室町文化の特色の一つを説明する問題などである。

これらの問題では、資料を的確に読み取る力と、それぞれの資料から読み取れることと既習の知識や概念を関連付け、それを的確に表現する力が求められる。

そこで指導に当たっては、次のような学習指導の工夫が必要である。

- ・資料の読み取りでは、最も多いところ、最も少ないところ、大きく変化しているところ、共通するもの、異なるもの、同じ傾向にあるもの、矛盾するものなど、適切な視点をもって考察させる。
- ・資料から分かったことを表やカードなどで整理させるとともに、関連する既習の知識や概念もカードなどに整理させ、関係図などを用いて結び付けて考えさせる。

3 中学校英語

- 教科全体では、期待正答率 60.5%に対して平均正答率 58.6%であり、1.9 ポイント下回っている。(昨年度は+1.8 ポイント)
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 1.4 ポイント上回り、「活用」に関する問題では、9.5 ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、表現、理解の能力で 2~7 ポイント程度、期待正答率を下回っている。知識・理解では 3.1 ポイント上回った。
- 解答形式別では、記述式、論述式で期待正答率を下回っており、特に論述式では、約 16 ポイント程度下回っている。選択式は、5.6 ポイント上回った。いずれの形式も期待正答率を下回っており、特に論述式では、約 11 ポイント下回っている。
- 領域別では、いずれの領域においても、1~3 ポイント程度、下回っている。
- 正答数分布は、9 問から 27 問にかけて、約 4~5%の生徒が分布しており、なだらかな山のような形状を示している。

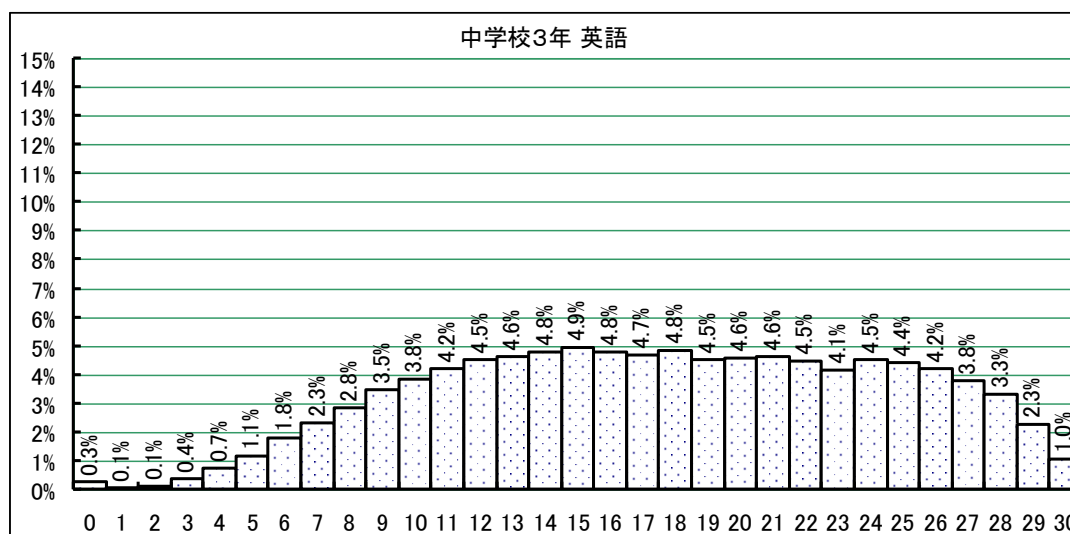
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	記述式	論述式
期待正答率	60.5	66.2	47.2	47.1	65.0	56.1	65.0	58.3	41.3
平均正答率	58.6	67.6	37.7	39.9	63.1	59.2	63.8	63.9	24.9
差	-1.9	1.4	-9.5	-7.2	-1.9	3.1	-1.2	5.6	-16.4

■ 領域別の正答率

	領域別正答率		
	聞くこと	読むこと	書くこと
期待正答率	67.8	61.9	50.0
平均正答率	67.4	59.5	47.4
差	-0.4	-2.4	-2.6

■ 正答数分布 (全 30 問) 横軸：正答数 (問) 縦軸：児童の割合 (%)



■ 中学校英語 問題内容と解答類型（類型番号の白黒反転は正答）

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号						正答率	期待 正答率
				選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	9	無解答		
1	1	(1)		☆				◎			①リスニング (絵を見て答える)	①聞くこと	キーワード(位置)を聞き取ることができる。	0.6	83.2	1.0	14.9	0.0	0.3	83.2	85.0
2		(2)		☆			◎			キーワード(値段)を聞き取ることができる。			1.3	1.5	4.5	92.3	0.0	0.3	92.3	75.0	
3		(3)		☆			◎			キーワード(場所と過去進行形)を聞き取ることができる。			87.2	3.2	2.1	7.2	0.0	0.3	87.2	85.0	
4		(4)		☆			◎			キーワード(比較表現)を聞き取ることができる。			9.4	30.2	47.5	12.4	0.0	0.4	47.5	55.0	
5	2	(1)		☆			◎			②リスニング (対話文の応答)	①聞くこと	対話の内容(たくさん鳥がいるか)を聞き取り、適切に回答することができる。	55.2	13.5	19.2	11.4	0.0	0.6	55.2	70.0	
6		(2)		☆			◎		対話の内容(次の日曜日の天気はどうか)を聞き取り、適切に回答することができる。			5.0	11.3	15.4	67.7	0.0	0.5	67.7	65.0		
7		(3)		☆			◎		対話の内容(一緒に勉強してよいか)を聞き取り、適切に回答することができる。			10.1	69.9	10.2	9.1	0.0	0.6	69.9	60.0		
8	3	(1)		☆			◎		☆	③リスニング (メモの完成) ※	①聞くこと	自己紹介を聞き取り、要点(誕生日)を書きとめることができる。	29.3	19.5			47.6	3.6	29.3	55.0	
9		(2)		☆			◎		☆			自己紹介を聞き取り、要点(最もおもしろいスポーツ)を書きとめることができる。	74.6	12.9			10.9	1.6	74.6	60.0	
10	4	(1)		☆			◎			④長文の読み取り	②読むこと	メールの内容(ポールが日本語の勉強を始めた時期)を把握することができる。	2.6	10.2	10.1	76.3	0.0	0.7	76.3	75.0	
11		(2)		☆			◎					メールの内容(ポールがするスポーツについての内容)を把握することができる。	5.2	70.8	19.6	3.4	0.3	0.7	70.8	75.0	
12		(3)		☆			◎					指示語(That)が指す内容を把握することができる。	9.0	12.3	63.5	14.3	0.1	0.8	63.5	70.0	
13		(4)		☆			◎					メールの内容(浩司が所属している部活動)を把握することができる。	73.3	5.5	6.0	14.2	0.1	1.0	73.3	75.0	
14	5	(1)		☆			○◎			⑤文法・慣用表現の知識・理解	②読むこと	対話の流れ(相手に許可を求める)が理解できる。	18.6	52.7	16.8	10.9	0.0	0.9	52.7	60.0	
15		(2)		☆			○◎					対話の流れ(不定詞の副詞的用法)が理解できる。	50.7	13.1	15.5	19.7	0.0	1.0	50.7	55.0	
16		(3)		☆			○◎					対話の流れ(過去進行形)が理解できる。	10.1	70.7	10.1	8.0	0.0	1.0	70.7	55.0	
17		(4)		☆			○◎					対話の流れ(have to)が理解できる。	9.7	14.5	12.2	62.4	0.1	1.1	62.4	60.0	
18	6	(1)		☆			◎			⑥さまざまな英文の読み取り※	②読むこと	置き手紙の主旨(美紀にしてほしいこと)を理解することができる。	5.5	19.3	65.4	8.9	0.0	0.9	65.4	70.0	
19		(2)		☆			◎		☆			英文とグラフを正しく読み取り、意見の正否を判断できる。	25.3	16.7	17.0	39.3	0.0	1.6	39.3	40.0	
20		①		☆			◎		☆			会話の内容から、映画館の位置を把握することができる。	24.2	13.6	40.3	19.6	0.1	2.3	40.3	50.0	
21		②		☆			◎					会話の内容(we can'tのあとに省略されている内容)を把握することができる。	51.8	15.3	23.4	7.4	0.1	1.9	51.8	65.0	
22		③		☆			◎		☆			会話の内容と資料から2人が見る映画の上映時刻を把握することができる。	11.9	20.2	56.1	9.7	0.1	2.0	56.1	55.0	
23	7	(1)		☆			○◎			⑦単語の並べかえによる英作文	③書くこと	文法事項(SVCの文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	80.7	5.8			8.9	4.6	86.5	70.0	
24		(2)		☆			○◎					文法事項(asを使った原級比較)を理解し、正しい語順で書くことができる。	83.2	2.6			9.4	4.8	85.8	70.0	
25		(3)		☆			○◎					文法事項(SVOOの文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	56.4	2.1	16.9		19.4	5.2	58.5	50.0	
26		(4)		☆			○◎					文法事項(接続詞のthat)を理解し、正しい語順で書くことができる。	47.9	0.5			46.4	5.2	48.5	45.0	
27	8	(1)				☆◎		○	☆	⑧場面に応じて書く英作文※	③書くこと	実生活の場面で、最上級の比較表現を使った表現ができる。	21.8	2.5	3.9		40.6	31.2	21.8	40.0	
28		(2)				☆◎		○	☆			実生活の場面で、動名詞を使った表現ができる。	12.0	4.1	3.9		41.3	38.6	12.0	40.0	
29	9					☆◎			☆	⑨20語以上の英作文※	③書くこと	与えられたテーマ「よく休日にする」を明らかにして書くことができる。	44.7				27.2	28.1	44.7	45.0	
30						☆◎			☆			テーマにそって、つながりのある内容の英文を書くことができる。	21.2	35.3			15.5	28.1	21.2	40.0	

■ 中学校英語 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 情報を正確に聞き取るための指導

「聞くこと」の領域に関しては、3人の身長を比較した情報を聞き取って答える問題や、留学生の自己紹介を聞いて誕生日について答える問題の正答率が低い状況である。

これらの問題では、複数の英文を聞きとり、事実や出来事などの情報について正しく理解し、聞き取った情報から正答を見つけ出す力が求められる。

そこで、リスニングを指導する際は、英文の聞かせ方にポイントをおいて指導する。例えば、留学生の自己紹介では、月日を表す英語が2か所 March 1st, July 1st と出てくる。月名は異なるが日にちはどちらも March 1st, July 1st である。英文の前後を聞き取っていなければ最初に出てきた月日だけを聞き取り、誤答となった可能性がある。そこで、生徒に英文を聞かせる際は、1度目に英文を聞かせ月日を表す情報が2つあったことを確認する。2度目に、それぞれの月日の関係を明らかにする。最終的には、英文全体を聞かせ問題文と正答の関係を確認する。なお、英文を聞き取ることが難しい生徒に対しては、段階的にリスニングを行い、ポイントに気付かせながら指導することが必要である。

◇視点2 長文を読んで、前後の関係から必要な情報を引き出すための指導

「読むこと」の領域に関しては、会話文を読み、会話で省略されている内容を文脈から把握する問題が期待正答率を下回った。6の(3)の会話文では、I want to see “The Cat World”! と言っていることに対し、It’s Sunday today, so we can’t… と答えている。ここでは、前文を受けて、「今日が日曜日なので、(それは)できない」となることから、接続詞である so がどのような働きをしているかを理解させなければならない。so の前にある情報がポイントとなることから、前文と資料として示されている上映日の情報とをあわせて判断する必要がある。指導としては、英文を読ませる際に、接続詞の so や because など意識させながら生徒に英文を読ませ、理由などを明確にしながらか必要な情報を引き出すような指導が大切である。

◇視点3 場面に応じた英文を書くための指導

「読むこと」の領域に関しては、昨年度と同様、場面に応じて英文を書くことの正答率が低い状況である。この問題では、日本語で示された内容に合うように、英文として場面に応じた適切な文構造や語彙を用いて表現する力が求められる。そこで、英文を書く指導の際は、日本語が示す内容から、どのような言語材料が必要かを考える場を設定する。そして、日本語には主語が省略されることがあるので、日本語から何を主語として英文にするのか、複数の日本語を読ませて英語にした場合、何が代名詞となり得るのかを意識させながら実際に英語で表現できるように指導する。その際、まとまりのある2～3の英文で表現できるようにする。

◇視点4 書くことで自分の考えや気持ちを正しく伝えるための指導

与えられたテーマに沿って20語以上を用い、つながりのある英文で表現することの正答率が引き続き低い状況である。

そこで、英文で表現する場合には、事前に具体的な場面や状況に合った適切な語彙、表現、文構造をヒントとして板書し、それらを組み合わせながら表現できるように指導する。その際、生徒の気持ちや考えなどについて適宜付加しながら表現するように指示し、英文とのつながりとして適切かどうかを判断させながら、より豊かな表現となるよう工夫していくことが大切である。